

1 『センセ、俺とえっちしよ。

2 〜放課後は中出しのお時間です〜』

3
4 キャラクター詳細

5 主人公

6 清沢 雫(きよさわ・しずく)

7 年齢：18歳

8 身長：178cm

9 爽やかな雰囲気と人当たりの良さから周囲に慕われている。

10 ヒロインが困っていたら積極的に手伝うなど、二人きりの時間を作るため
11 日々努力
12 している。

13
14 ヒロイン(24歳)

15 新任教師。雫とは恋人関係。

16 元気で一生懸命な姿に生徒だけでなく教師にも慕われている。

17
18 あらすじ

19 体育大会が終わり後片付けに追われるヒロインと雫。

20 空き教室にて体育祭で使用した備品を片付けている中、雫は
21 ヒロインにキスをする。

22 誠実な雫のお願いにヒロインは断り切れず、徐々に気持ちよくなっていく。

23 「ああ、もっときよりも汗かいちゃったね。言い訳どうしようか」

24 最後はお互い汗だくになった二人で顔を見合わせて苦笑いをしてエンド。
25

26 ■トラック1

27 ○収録区切り①

28

29 体育倉庫

30 ヒロインと共に体育祭で使った備品を片付ける雫

31

32 机を運ぶ音

33

34 DHM:⑥

35 雫「先生、机持ってきました。あと、雑巾も」

36

37 DHM:①

38 雫「ふー…体育倉庫から持ち出したものは、これで全部ですね。

39 後は、備品を綺麗に拭いて片付けましょうか」

40

41 ヒロイン「手伝わせてごめんね」

42

43 雫「全然大丈夫です。むしろ先生から指名してもらえてありがたいですよ。

44 ーつついつ時じゃないと、二人きりになれませんからね」

45

46 雫「放課後だから人も少なくなってきたるし……。

47 ーの狭い空間に先生と一緒にだなんて、なんだかわくわくします」

48

49 雫「先生もそう思いませんか？」

50

51 ヒロイン「思いません」

52

53 雫「思いません…か。うーん……やっぱり先生は手厳しいなあ」

55 ヒロイン「恋人なのがバレたら大変でしょ」
56

57 雫「今の会話が誰かに聞こえたところで、問題ないと思っけよ。
58 そんなに恋人っぽかった？」
59

60 ヒロイン「睨む」
61

62 雫「怖い顔しないでください。もう何も言いませんから」
63

64 ヒロイン「早く終わらせましょうか」
65

66 雫「そうですね……」の辺りはすぐに暗くなっちゃいますし……。
67

早く終わらせましょうか。俺、机拭きますね」

68
69 雫「あーあ、グラウンドに置きっぱなしだったから、
70 かなり砂まみれになっている……」
71

72 雫「体育祭って、土埃で備品が汚れちゃうから後片付け大変ですよね」
73

74 雫「しかも今日は暑いっ……、
75 本当に早く終わらせないと汗だくになっちゃいます」
76

77 ヒロイン「凄い汗も……」
78

79 雫「はは、もうすでに汗でびしょびしょですよ。」
80

今日は一日中走りっぱなしでしたからね」

81
82 雫「委員会も競技も、常に全力で、やりきりましたから」
83

84 雫「先生も同じでしょ。

85 汗拭く暇もないくらい、俺たちのために頑張ってくれてる。
86 ちゃんと分かってますから」

87
88 雫「……先生はいつも一生懸命でかつよくて俺の憧れなんですよ。
89 子供の時からずっと……」

90
91 雫「先生に追いつきたくて、色んなことに挑戦して……。
92 褒めてもらうことに……必死だった」

93
94 雫「先生が俺から離れないようにずっと努力してきました」

95
96 雫「でも、先生は俺よりも先に大人になるから、
97 疎遠になって離れていくのが寂しかった」

98
99 雫「だから同じ空間にいるといい、楽しくなっちゃって。
100 ダメですね、やっぱり」

101
102 ヒロイン「……二人きりだし、少しくらい甘えてもいいんじゃないっ。」

103
104 雫「少しくらい甘えてもいい……ですか？」

105 じゃあちょっとだけ、手を握るくらいならいいですか？」

106
107 雫がヒロインの手を握る

108
109 雫「これだと誰か来ても、すぐに手を離すだけでいいじゃないか」

110
111 ヒロイン「教師として赴任するって聞いた時、どう思ったの」
112

113 雫「教師として赴任するって聞いた時ですか？

114 今聞きます？ まあ、そうですね…

115 そりゃあ、びっぴりしましたよ。しかも担任だし……」

116
117 ヒロイン「驚かせようと思ったのよ」

118
119 雫「呆れながら驚かせようと思ったって……。

120 俺の顔見るまでそんな」と考えてたんですか。ちよつとショック」

121
122 雫「ああでも、事前に聞かされない方が良かったかも。

123 当日までそわそわしちゃって、絶対落ち着かなかったから」

124
125 ヒロイン「授業に全然集中してくれないっ」

126
127 雫「そりゃあ好きな人が担任の先生になって現れたら、

128 授業なんて全然集中できませんよ」

129
130 雫「でも、先生に失望されたくはないので、めっちゃ勉強しましたけど」

131
132 雫「勉強する傍ら他の人にバレないように告白する場所とか内容とか、

133 頭の中で色々考えてたんですよ」

134
135 雫「だから結果的に先生に好きって返事貰えた時は、

136 嬉しくて……先生を見る度に好きだって言いたい気持ちを堪えてました」

137
138 ヒロイン「でも、お付き合いは卒業してからだから」

139
140 雫「ちゃんと恋人なのは卒業してからですよ？ わかってます。

141 ……だけど、その方が特別な恋って感じで俺は好きだな」

142
143 トロインを抱きしめる
144

145 DHM:①寄り
146

147 雫「いきなりごめんなさい。やっぱり手を繋ぐだけじゃ我慢できなくて。
148 でも、この角度なら抱きしめてるの分かりませんか」
149

150 雫「ほんの少しだけ……それからキスも」
151

152 雫「ダメ？」
153

154 雫「(キス1回)」
155

156 トロイン「(抵抗しながら)離してよ…」
157

158 雫「ごめんなさい、すぐに離してあげるつもりだったんですけど……
159 でも、勃ってしまっつ」
160

161 雫「ねえ、先生、このままでもいいですか？」
162

163 雫「本当に…本当に来年の卒業式まで待つつもりだったんですけど、
164 俺、もう我慢できなくなっつ」
165

166 トロイン「流石にそれはダメだよ」
167

168 雫「分かってます、いけないっつことは。
169 でも、このまま放置されちゃう」
170

俺、先生のこと…無理矢理してっまいそつで怖い……」

171 雫「だから、先生、してもらえませんか？」

172

173 雫「先生」

174

175 トロイ人「……少しだけだから」

176

177 雫「……ありがとうございます。なるべく早く終わらせてますから」

178

179 雫「後ろの壁に背中預けて立ってください」

180

181 トロイ人「えっ、いいっ？」

182

183 後ろの壁に背中を預ける

184

185 DHM:⑤

186 雫「そっちゃん、手をついて……」

187

188 DHM:③

189 雫「じゃあ、ジャージ脱がせますね(ジャージのズボンを脱がせる)」

190

191 ジャージのズボンを脱がせる

192

193 トロイ人「ちゅっ……」

194

195 DHM:⑥

196 雫「あ、そっですわね。敬語はやめまね。」

197

198 トロイ人「嬉しい、そっちゃん……」

199

200

DHM:③

201

雫「だめだよ…抵抗しちゃ。だって『今は』恋人同士だもんね」

202

203

DHM:⑤下

204

雫「すーい…パンツもジャージもびつちり……。」

205

まんこ、凄く蒸れてて、濃い匂いがする」

206

207

雫「太ももも濡れてて、触ると気持ちいい。

208

指を滑らせるだけで、エッチな声我慢してる」

209

210

雫「ね、先生、もっと足広げて。よく見せて…」

211

212

ヒロイン足を広げる

213

214

雫「ふふ、素直でカワイイ。

215

でも、恥ずかしがって顔逸らしちゃうのんだ。」

216

217

雫「先生のまんこ、凄く綺麗……くりも入り口もしっとりしてる。

218

入り口にキスすると……(キス一回)汗の味と一緒にやらしい匂いで

219

俺のチンコ、また大きくなりそ」

220

221

雫「パンツの中、ぱんぱんになってるの、先生に見せたいな……」

222

223

ヒロイン「早く終わらせないと誰か来ちゃう」

224

225

雫「早く終わらせないと誰か来ちゃう..

226

安心して、ちゃんと鍵かけてるから誰かが入ってくることはないよ」

227

228

ヒロイン「でも……」

229

雫「大丈夫だから、ね」

230

231

232

雫「クリトリスを撫でながら」

233

ほら、クリ、指でくちゅって押し潰すのいいでしょ。

234

指を優しく動かすと気持ちいい声出そうになってる……」

235

（軽く手マン 10秒）

236

237

雫「先生はこじが気持ちいいんだよね。」

238

可愛く勃ってるクリ、汗と愛液まみれになっててエロいね」

239

240

雫「顔がさつきよりも赤くなって、声抑えながら震えてるのそぞられる

241

こじの壁、薄いみたいだからちゃんと我慢しないと先生、バレちゃうね」

242

（手マンしながら太ももを舐める 10秒）

243

244

雫「（太ももを舐めながら）太ももの付け根に舌を這わせるの、いいの？」

245

びゅびゅしてる……先生って、かなり敏感なんだね」

246

247

雫「小さい頃のこと覚えてる？ 家が近所でよく遊んだよね？」

248

先生も男に交じって走り回ってた……。

249

膝とかに着けてた絆創膏が勲章みたいで、カッコよくて……

250

俺、あのころからずっと好きだったんです。」

251

252

ヒロイン「……うん。」

253

254

雫「今、その大好きな太ももを舐めてるなんて……なんか変な気分。

255

緊張してるの？ また、汗かいてるね」

256

257

ヒロイン「急がないと……」

258 雫「まだ、そんなこと言ってる？」

259

260 雫「あ、ごめん。太ももに夢中になりすぎちゃったのか。

261 いますぐに汗だくなまん」舐めてあげるね」

262 (クンニー〇秒)

263

264 雫「舌で優しく撫でるよね」……んん、びびびってる……

265 俺の舌挟むように締めつけるの可愛い

266 (クンニー〇秒)」

267

268 雫「クンニーしながら」

269 間に舌を差し込んで、上下に動かすとエッチな液が溢れてくる…

270 もっと気持ちよくなっているから、体の力抜こうか」

271

272 雫「汗と一緒に先生のが口の中に入ってくる。

273 入り口、さっきよりもびしょびしょだよ」

274 (クンニー〇秒)

275

276 雫「クリも赤くなって、強めに吸うと大きくなってる。

277 ちつきよりも濃くて……先生のまんこいっぱい舐めて、

278 もっと敏感にしたい」

279 (クンニー〇秒)

280

281 雫「口、ちゃんと押さえないと声漏れてるよ。

282 ねえ、先生、腰揺らしてみて。俺のこと誘って」

283 (クンニー〇秒)

284

285 雫「びしょるよね？」

286

287 トロイン腰を揺らす

288

289 雫「先生、エロすぎ。ああ、可愛い、大好き」

290 (クニニ20秒)

291

292 DHM:⑤

293 雫「ぶはっ…はあ、はあ、先生、俺、もう、ほんとに止まらない。

294 …挿れたい…先生の敏感になってるまんこの中で…

295 チン「いっぱい扱いてほっす」

296

297 トロイン「でも、ゴムないっ……」

298

299 雫「ゴム？実は、用意してました…だから！挿れさせて！

300 俺、このまま先生の中に出さないと、帰れないよ！

301 ーっっでお預けされたら、どうにかなっちゃいそっ…」

302

303 トロイン「わかった…けど…」

304

305 DHM:⑤

306 雫「ありがとう！先生大好きだよ！ほら、こっち向いて…」

307

308 DHM:①

309 雫「もう抵抗する気力、残ってないんでしょう？

310 だったら好きにさせて……全部、俺のせいにしていいから…」

311 (ディープキス20秒)

312

313 雫「マッパに寝かせるから、そのまま足開いてっ」

314

315 雫 トロインをマッパに寝かせる

316
317 雫「先生、挿れるよ」
318

319 ヒロインに正常位、挿入
320

321 DHM:①

322 雫「んっ……はあ、はあ。先生のまんこきつい。中々奥まで入らないや。
323 でも、途中でもすげえ気持ちいい…」

324 (キス10秒)
325

326 雫「じゃあ、チンコ、ゆっくり中に押し込むから、痛かったら言って。
327 ほら、でかいのが先生の子宮に会いたいつて入ってく……」
328

329 雫「ああっ…ダメ、声は我慢しないと。バレちゃうよ。
330 そう、ちゃんと口元抑えててね」
331

332 雫「動くよ?」
333 (ピストン 10秒)
334

335 雫「(ピストンしながら)んっ……ああー
336 中が俺のを奥に引く張りーもつとつてる。
337 ああ、そんなにぎゅっつて締めつけるのダメ、ああ……ん」
338

339 雫「(ピストンしながら)めん、感じる先生可愛いから…
340 腰、止められない。
341

342 ああ、顔真っ赤にして喘いでる先生、好き。
343 先生とのセックス気持ちいい」
344

345 雫「ピストンしながら」奥を突き上げると、体のけぞってる……。

346 あったかい中でチン」締めつけられると、もっと先生が欲しくなる」

347

348 雫「ピストンしながら」

349 ああ、俺のが入ってる先生のから、いっぱいお汁、出てる……

350 マットにぐんぐん染みこんでるね」

351

352 雫「先生、もう声抑えるのしんどいよね？」

353 でも、俺、まだ出せないから。我慢してね」

354 (ディープキス 10秒)

355

356 雫「もっと、一番奥に出せるように亀頭で子宮口を気持ちよくしてあげるっ」

357

358 雫「ああっ……勢いで奥まで入っちゃった。

359 子宮に亀頭が当たって、先生イきそうなの？」

360

361 雫「子宮とところで熱くて……いいね、好きだよ、せんせいっー」

362

363 ※以降、ピストン強をしながら

364

365 雫「突くたびにマン」が締まる……全身汗だけで、インナー透けてんのエロイ」
366 (ディープキス 10秒)

367

368 雫「子宮口を亀頭で押し上げるのいいでしょ？」

369 ほら、俺の大きいので何度も先生の可愛い「ん」気持ちよくするね」

370

371 雫「はあ、はあ、先生が俺のチン」でこんなに喘いでる。

372 エロイ顔しながら学校でイきそうになっているの可愛い……」

373 (ディープキス10秒)

374 雫「唇も汗でびっちゃんびちゃ。」

375 376 熱くて、キスするのじよこばいっ……エロすぎ」

377 雫「もう声は抑える余裕もなくなったの？」

378 放課後でも生徒残ってるんだから、バレちゃうよ。

379 ほら、いいところ突き上げられても、我慢してっ。」

380 (ポストン 10秒)

381

382 雫「涙目で、マン」締めてるの可愛いすぎ」

383

384 雫「ああ、先生、気持ちいいよ。」

385 俺のチン」締めつけるのやめられない先生、大好き」

386

387 雫「卒業したら絶対にお嫁さんにしてあげるから」

388

389 ヒロイン 頷く

390

391 雫「卒業式の楽しみが増えちゃった。そうやって

392 頷きながらマン」締めつけてくれると、出したくてたまない」

393 (ディープキスしながらポストン 10秒)

394

395 雫「ああ、やば、すっげえ、締まる……気持ちいい

396 先生、ああ……好き、だから、全部出させて………」

397 (ポストン 強20秒)

398

399 雫「ああ……イクっ、出る……ん、ああ………」

400 (絶頂)

401

402

403 雫「(息を整えながら)はあ、はあ、ん…
404 射精するたびに先生のマン」締まって、ん、気持ちいい。
405 はあ、はあ……」

406
407 雫「締めつけ止められないの？
408 そんなに中でチン」ぎゅゅってされるの、気持ちよくなってもう出ちゃう。
409 はあ、はあ……」

410
411 雫「はは、二人共さっきよりも汗だくになっちゃった」
412 (キス 10秒)

413
414 性器を抜きヒロインを支えながら起こす
415

416 DHM:①
417 雫「ははっ…先生顔真っ赤。かわいいー」
418

419 ヒロイン「じんなのだめじゃんー」
420

421 雫「『めん、やりすぎたのは反省してるよ。
422 しかも片づけ、増やしちゃったし……」

423
424 雫立ち上がり

425
426 DHM:①H
427 雫「俺が責任もって片づけますー」
428

429 ヒロイン「私も…」
430

431

432 雫「いいよ、まだ動けないでしょ？」

433 あとは俺がやっておくから」

434

435 トロイン「任せるなんて、できない」

436

437 雫「もう、休んでなつて。昔頃から、しっかりしてるお姉ちゃんだけどわ…」

438

439 DHM:①寄り

440 雫「任せていいんだよ？俺も先生の力になりたい」

441

442 雫「早く頼れる男になつて、先生を支えてあげたいんだ」

443

444 雫「……だから卒業までは俺ができることはしたい」

445

446 雫「だって俺は先生の彼氏…になるんだから」

447

448 トロイン「わかってけど……」

449

450 雫「なにか不安？力仕事は得意だけど……」

451

452 トロイン「雑だから」

453

454 雫「雑かあ…はは、やっぱり先生は厳しいなあ。

455 そうだよね…

456 頼れる男になるにはまずは細かいことをしっかりしないと……」

457

458 雫「そして、ちゃんと卒業しなきゃねー」

459

460 トロイン「うんっ」

461
462 雫「だって生徒のままじゃ、ただの子供だもんね」
463

464 雫「俺、ちゃんと勉強とかして卒業する。だからその日まで待ってて。
465 俺が大人になる姿、見届けてよね、先生」
466

467
468
469
END